

---

## 第3章 組み合わせによる心理的効果の検討：設定1 - 色空間で香りを嗅ぐ場合 -

---

第2章で検討した色彩と香りの調和ペア、不調和ペアを用い、組み合わせによる心理的効果を検討した。

第1章で、色彩と香りの組み合わせに着目した相互的影響に関する先行研究の一つとして、Saito et al. (2002) の研究を紹介した。この研究では、任意の色彩で周辺視まで覆われた空間内で香りを嗅ぐという設定におき、様々な色彩と香りを組み合わせで心理的効果を検討している。その結果、ふさわしい組み合わせ条件下では、色彩、香りの性質が相乗的に高められる場合があることが示唆されている。そこで第3章では、同様の設定におき、調和による心理的効果を検討することとした。

§3-1 の「調和条件・不調和条件における心理的効果の比較」では、これまでと同様の印象評定、気分評定の2つの心理指標を用いた。

続く§3-2 では、精神的ストレスからの回復期に対する色彩と香りの調和性が与える影響に着眼し、精神的ストレスの指標として、唾液中クロモグラニン A (CgA) を指標とした。

### 【本章の目的】

周辺視を含む視野全体が任意の色彩で覆われた空間内で香りを嗅ぐという設定において、色彩と香りの組み合わせ（調和ペア、不調和ペア）による心理的効果を検討する。